

児玉堂

このお堂には、虚空蔵菩薩の化身とされる宝珠が祀られています。虚空蔵菩薩は、宇宙と同じくらい無限に広い知恵を持つ、菩薩の中でも最高のうちの一体です。西暦 820 年、真言宗の開祖である空海が、この児玉堂を建立しました。伝説によると、空海はある日、児玉堂からほど近い小さな池に行き、十七日の間一日も休むことなく瞑想したそうです。瞑想の最後の日に、大きな白玉と小さな白玉が、湖から現れるという不思議なことが起きます。空海は、その二つの白玉のうち大きな宝珠を、北極星の神である妙見菩薩の化身であると考え、中禅寺に祀りました。そしてここに小さな白玉を祀ったのである。これが“The Hall of the Small Pearl”という名前の由来です。